

震災より二年を経て

東日本大震災は三年の時を経ましたが、未だ仮設住宅、又放射能からの退避によりましていつ故郷へ帰れるかも知れない人々が二十三万人を超えていました。被害を受けながらの人、同じこの日本に住んでいながら不条理そのものであります。【不条理】事柄の筋道が通すことの出来ない事が数多くあります。しかもその不条理な事を人間が犯すようになり、言い訳さえもするようになってしまいます。今年の三月十一日現在、死者一五八八四人、不明者二六三三人、避難等生活に関する震災関連死三〇四八人になっています。悲しいつらいことです。

「寄り添い」「絆」「東北に優しさを」などと声たかだかに呼ばれました。しかし三年が過ぎ時間がと共に思ひが薄れ、記憶の風化が日本の中で進んでいるように見えてなりません。愛する人を失つた悲しみ、故郷への思いはいつまでも消えるものではないでしよう。目の前の肉親を救えなかつた悔い、自分が生き残つてしまつた後ろめたさもあると思います。「花は花は花は咲く」とN H Kからよく流れています。しかし福島は現実にそれどころではないのです。

被災者は耐えがたい難い状況にあるのです。このよくな中で国土強靭化、原発再稼働等が着々と進められようとしています。「日本人の価値観の見直し」という反省が震災直後は叫ばれました。だがどこに行つてしまつたのでしょうか。三年過ぎればすつかりと忘れ、津波に流されたことよりも、水に流すということなのでしょうか。犠牲の方々に申し訳ないことでですね。

また復興の名の下に以前の生き方に戻ろうとしています。世論調査でも今政治に望む事は「景気回復」です。結局は「お金」「経済」ということでしょう。その中で被災地はどんどん捨てられ忘れ去られています。仮設住宅からいつ出られるのか、放射能汚染による家族の崩壊、離婚率も高くなつてきていると言われます。「フクシマ」から避難生活をされてる方への心ない差別現象も生まれてきます。復興のための、人手不足、資材の不足も言われています。東京五輪が優先され被災地の復興が遅れることも予想されています。

このようなことこそが不条理そのものと言えます。自然界も人間の目から見ますと不条理な事を引き起します。どんなに真っ正直に生きても自然が牙をむけば人間などはひとたまりもありません。日本は昔から自然災害の多い国でした。しかし幾たびの災害を乗り越え耐えて、營々と生活を営んできたのが私たち先祖の歴史でした。不条理には一つあります。自然界の不条理と人間が起こす不条理があると思います。人間が自らの都合、利益で起こし作る不条理は許されていて、生老病死など四苦八苦は不条理な事ではありません。当たり前の事なのです。

不条理な事を起こすのは実は人間のみであることを心すべきでしよう。戦争あれ、過労死であれ、いじめあれ、すべて人間が起こす「人災」の不条理です。私の根っこにはいつもそのようなものがいつも潜んでいることを仏法は警告し知らせます。

今まで一度本当の「寄り添い」とか「絆」とは何であつたのか再確認が大切でしょう。犠牲になられた方々へ残つた私たちの責務を真剣に考えなければ・・・・